

国際航空ネットワークの動向と空港会社等の取り組み ～英国の事例調査を中心に～

2017年5月24日

国土交通政策研究所
主任研究官 仲田 知弘

1-1. 調査研究の背景

世界的な国際航空自由化



【日本】

- オープンスカイを推進
(31ヶ国・地域と合意、2016年12月現在)
- LCCの事業拡大
- 空港の民営化が開始
(空港経営の一体化、民間への経営委託)

 国際航空に関する様々な取り組みが展開

1-2. 調査研究の目的

- 欧州は、国際航空に関する様々な取り組みを1980年代から2000年代にかけて実施



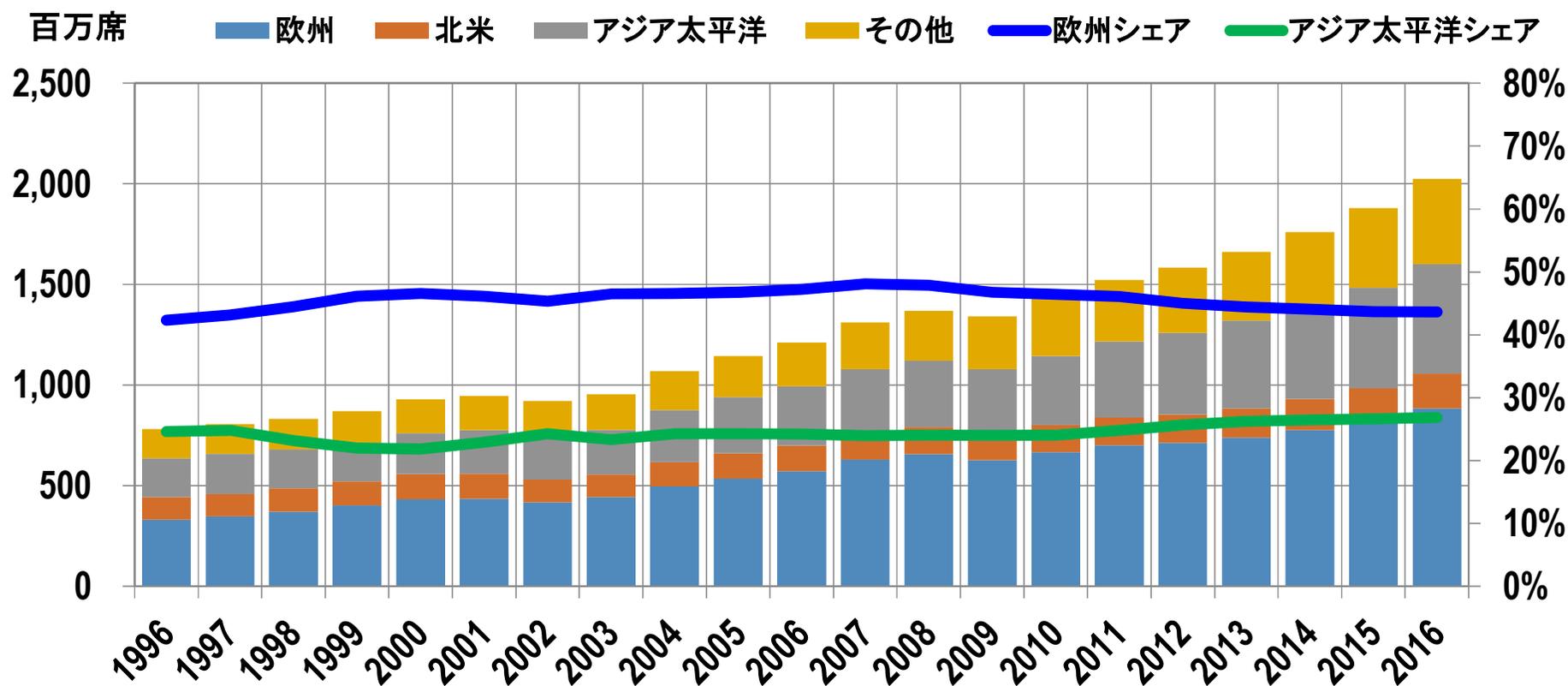
- 国際航空ネットワークの動向や空港会社の誘致や地域との連携について調査し、日本の今後に参加となる動向や取り組みを報告

<発表内容>

- 欧州と日本における国際航空ネットワークの動向
- 英国の事例調査に基づく空港会社等の取り組み

2-1. 世界における国際線の座席数

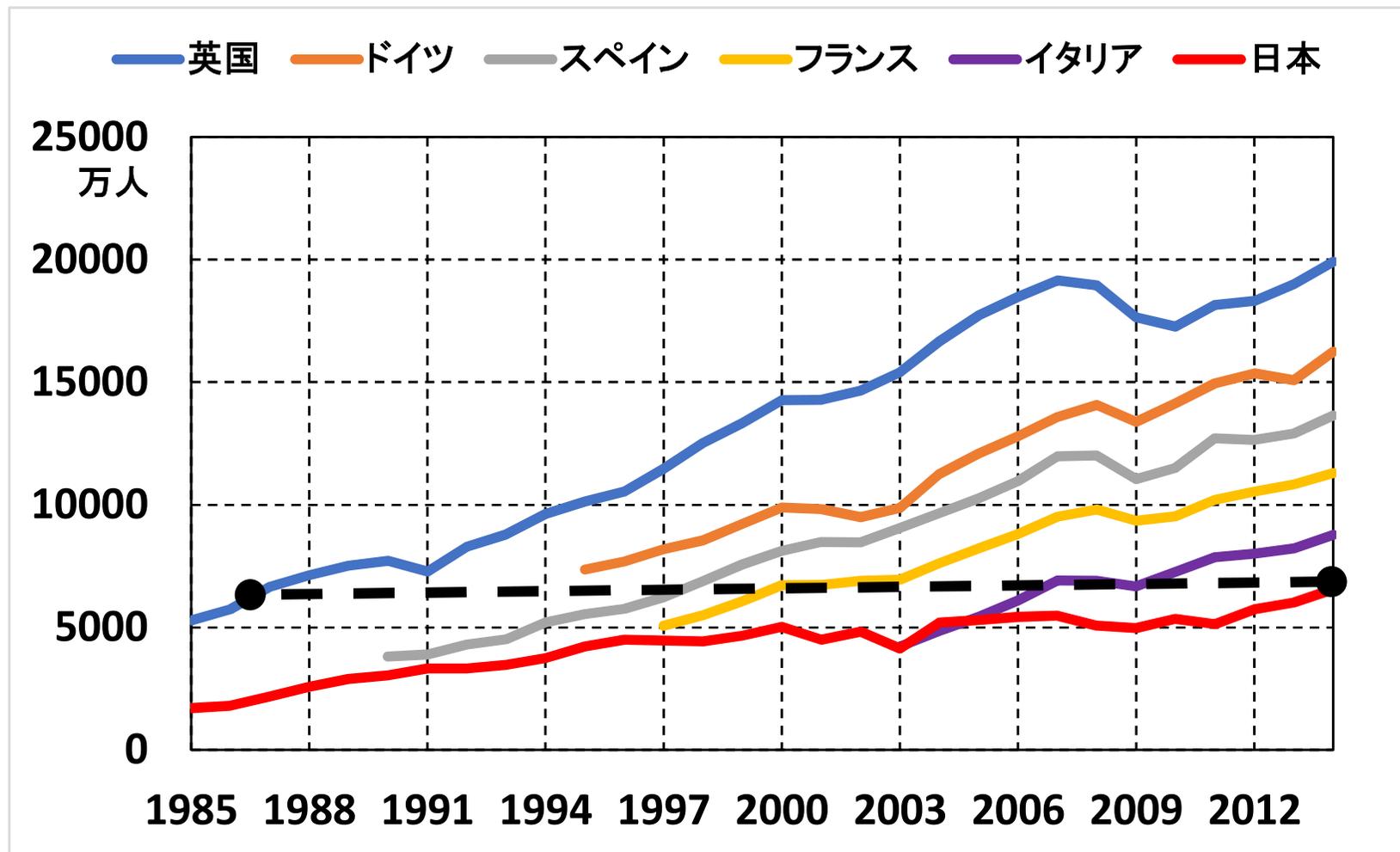
- 2004年頃から国際線の座席数が増加傾向
- 世界の国際線が約20億席(2016年)
- 欧州シェア44%、アジア太平洋シェア:27%



※ OAG Dataの出発便を集計

2-2. 欧州主要国と日本の動向①

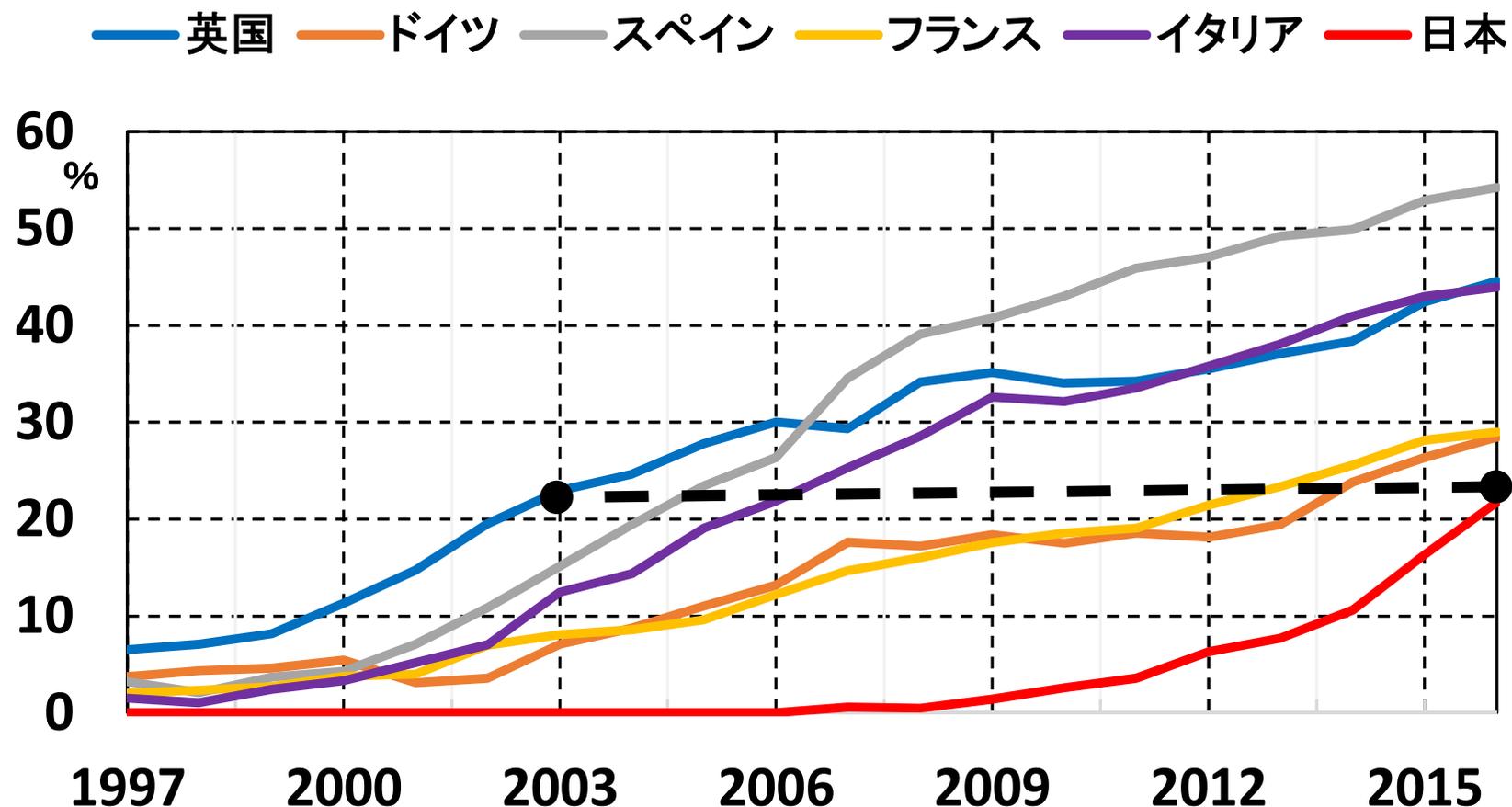
- 日本の2014年の国際線旅客数は、英国の1987年の国際線旅客数とほぼ同じ



※各国の統計データを元に作成

2-2. 欧州主要国と日本の動向②

- 日本の2016年の国際線LCC便数の割合は、英国の2003年の国際線LCC便数の割合とほぼ同じ



※各年10月時点(OAG)で作成

2-3. 欧州主要国と日本の動向③

- 国際線旅客数と便数 : 英国は日本の約3倍
- 国際線LCC便数の割合: 英国は日本の約2倍

	国際線旅客数 [十万人／年]	国際線便数 [出発便／月]	国際線LCC 便数の割合
英国	2,094	69,052	45%
ドイツ	1,707	64,285	28%
スペイン	1,437	47,339	54%
フランス	1,127	40,476	29%
イタリア	980	34,892	44%
日本	762	20,505	22%

※国際旅客数は2015年時点 (Eurostat)、国際線便数は2016年10月時点 (OAG Data)

2-4. 航空会社別国際線便数の比較

- 英国やドイツでは、上位の国際線便数にLCCが入る
(日本ではピーチの12位が最上位)

	1位	2位	3位
英国	ブリティッシュ・エアウェイズ	ライアンエア	イージージェット
ドイツ	ルフトハンザドイツ航空	エアベルリン	ライアンエア
フランス	エールフランス	イージージェット	ライアンエア
日本	全日空	日本航空	大韓航空

日本の12位: **ピーチ・アビエーション**

※国際線便数は2016年10月時点(OAG Data)

2-5. 空港会社の分類

- 空港会社の所有形態を分類すると、各国の割合が異なる

	民間	官民混合	公共
英国	53%	26%	21%
ドイツ		47%	53%
スペイン		98%	2%
フランス	42%	23%	35%
イタリア		86%	14%

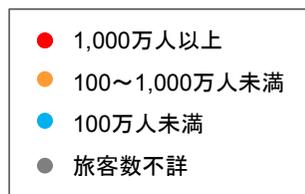
※The ownership of Europe's airports 2016(ACI EUROPE)

- 各国の国際航空便数等が長期的に増加傾向
- 各国の国際線LCC便数の割合は異なる
英国:45%、ドイツ:28%、スペイン:54%、
フランス:29%、イタリア:44% (日本:22%)
- 各国の空港会社の所有形態の割合も異なる
民間が多い:英国:53%、フランス:42%
官民混合が多い:スペイン:98%、イタリア:86%
公共が多い:ドイツ:53%、フランス:35%

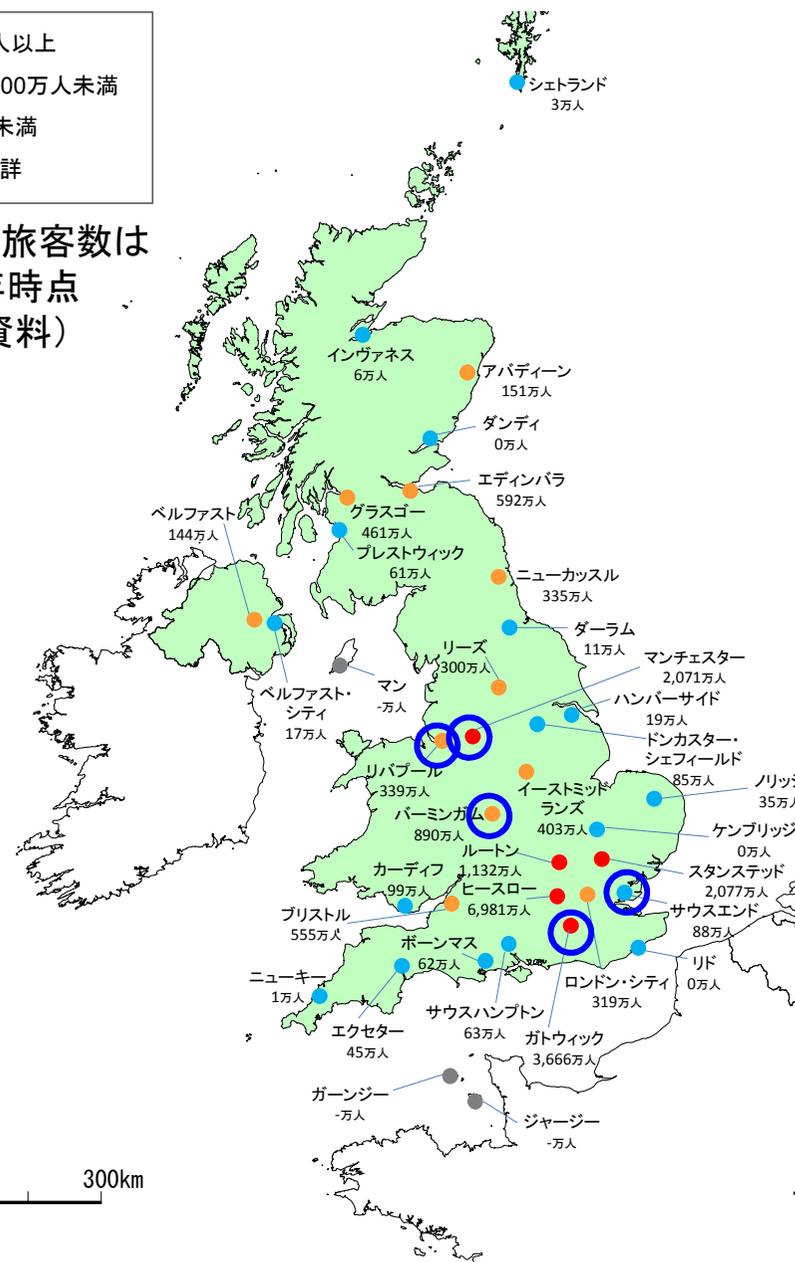
 上記や地理的条件を踏まえ英国調査を実施

3-1. 国際旅客定期便が就航する空港

- 就航空港数: 36
- 国際旅客1000万人以上の空港数: 5
→ **ガトウィック、マンチェスター**
- 国際旅客100～1000万人未満の空港数: 11
→ **バーミンガム、リバプール、サウスエンド**
- 国際旅客100万人未満の空港: 17
- 不明: 3



※国際線旅客数は2015年時点(CAA資料)



3-2. 英国の事例調査

- 空港会社等の取り組み → ヒアリング調査

空港名	国際旅客数 [万人]	LCC便数の比率	空港運営会社
ガトウィック	3,809	66%	民間
サウスエンド	110	73%	民間
マンチェスター	2,195	47%	官民混合
リバプール	398	90%	官民混合
バーミンガム	969	35%	官民混合

※国際旅客数は2014年時点（Eurostats）、LCC便数の比率は2016年10月時点（OAG Data）、空港運営会社はThe ownership of Europe's airports 2016（ACI EUROPE）及び各空港ホームページ。

3-3. 各空港会社の概要

	ガトウィック	リバプール
滑走路	3,316m(1本)	2,285m(1本)
就航	・FSA, LCC, チャーターの航空会社	・LCCの航空会社
近隣	・ヒースロー空港	・マンチェスター空港
戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・長距離路線や乗り継ぎ客を重視 ・既存航空会社を重視しつつ、新規航空会社を誘致 	<ul style="list-style-type: none"> ・中欧・東欧の新規LCCの誘致 ・20分以内の乗降が可能なターミナル ・ターミナルの商業収入を重視

3-4. 空港会社等の取り組み①

	ガトウィック	リバプール
機会	<ul style="list-style-type: none"> ・商談会や個別の航空会社を訪問 	
提案内容	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り継ぎ需要や新規路線の成長性 ・他空港の旅客需要の分析結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規路線の成長性や予想利益の提示 ・リバプール周辺の地域情報を月1回提供
協力内容	<ul style="list-style-type: none"> ・旅客数の目標に応じて利用料の設定 ・SNS等の広告、イベント等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・航空会社との長期契約による関係強化 ・旅客数の目標以下の場合、追加広告の実施

3-5. 空港会社等の取り組み②

	ガトウィック	リバプール
市場分析	<ul style="list-style-type: none"> ・航空券の予約データを分析 ・CAA(英国民間航空局)による旅客調査の結果を分析 	
取組体制	<ul style="list-style-type: none"> ・5名 	<ul style="list-style-type: none"> ・3名 (2014年から設置)
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・英国政府観光庁とマーケティング調査の連携 ・就航先について、英国大使館や英国投資開発庁から情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・リバプール市や企業と地域のPRも兼ねて連携 ・リバプール市が空港会社の20%の株を取得(2016年)

3-6. 取り組みのまとめ

- 空港会社は、旅客数のデータ分析や航空会社と交渉をするため、人材獲得や人材育成を実施
- 空港会社は、旅客数の予測や乗り継ぎ需要、地域情報等を航空会社に情報提供
- 単に旅客数の予測をするだけではなく、その状況に応じた利用料の設定や対策を提案
- 空港会社は、航空会社に対して、事業環境の特徴を活かした様々な支援方法を提示
- 地方自治体は空港会社とも連携し、利用者促進のPR活動

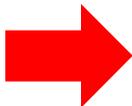
4. まとめ

<国際航空ネットワークの動向>

- 各国の国際航空便数等が長期的に増加傾向
- 各国のLCC便数の割合は異なる(28%~54%)
- 各国の空港会社の所有形態の割合も異なる

<英国における空港会社等の取り組み>

- 空港会社が航空会社に対して、旅客数のデータ分析やその空港の特徴に基づいた提案
- 地方自治体も空港会社に協力しながらPR

 今後、空港会社や地方自治体、航空会社の様々な取り組みや協働が必要

ご清聴ありがとうございました。